Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center News

2017／3
Vol.41

石川県リハビリテーションセンターニュース

～平成28年度事業について～

目　次

市町連携で取り組んだリハビリテーション技術
支援ネットワーク体制の構築 …… 1
補装具の適合・供給人材スキルアップ育成研修　４年間の取り組み … 2
リハビリテーション専門職活用事業 …… 2
介護負担軽減を目的とした職場環境改善の取り組み…… 3
バリアフリー推進工房事業 …… 3
高次脳機能障害相談・支援センター事業 …… 4
難病相談・支援センター事業 …… 5
小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 …… 6

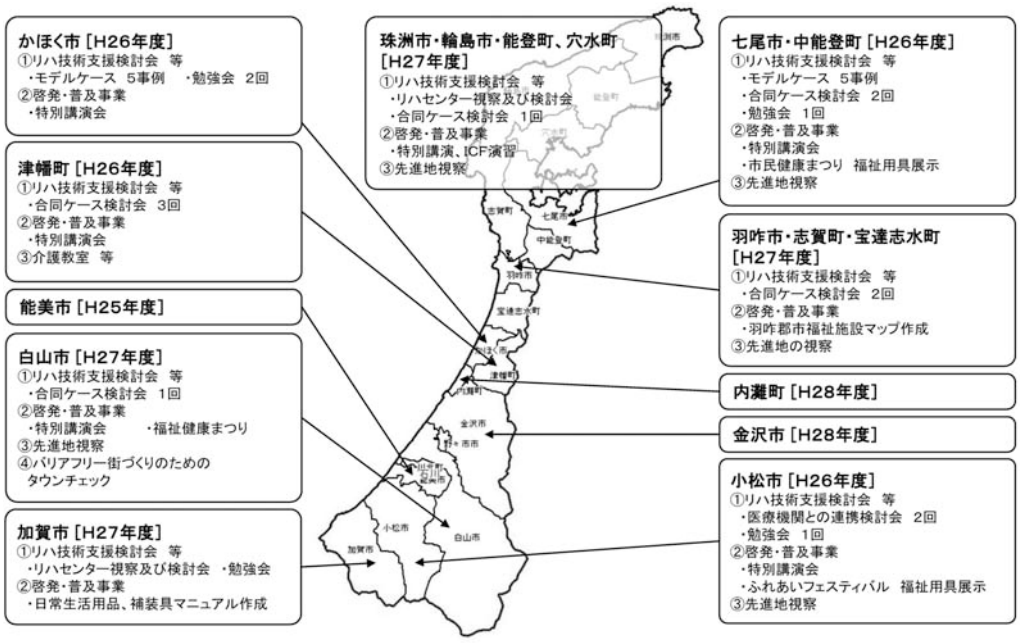
市町連携で取り組んだリハビリテーション技術支援ネットワーク体制の構築

障害のある人が可能な限り住み慣れた地域で本人の身体特性を活かした自立的な日常生活・社会生活ができるよう、身近な地域で相談及びリハビリテーション技術支援（以下、リハ技術支援）を受けられる相談支援体制づくりを目指し、平成25～28年の４年間に各地域でリハ技術支援に関する啓発・普及事業に取り組んできました。

中でも、障害のある人のサービス計画を立案する市町職員及び相談支援専門員を対象に、当事者の力を活かした「自立の視点」を重視した支援計画を立てるには、リハ技術支援が一つの武器になることをお伝えし、各地域において実状に合わせて勉強会、事例検討会、先進地視察など様々な取り組みが展開されました。

【リハ技術支援の内容】
リハ専門職が下記の支援を提供することで、在宅や施設、就学、就労の場面において障害者や高齢者の自立生活や社会参加の促進を図る。
・福祉用具の適合や住宅改修等による自立支援
・日常生活動作や生活関連動作の自立を促す支援
・健康管理、機能低下や変形、生活不活発の予防に関する支援
・障害者の自動車運転に関する支援

県内の各地域では、まだまだ在宅生活に直接関わることができるリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）は少なく、地域差もあるのが現状ですが、今後、地域ごとに訪問リハビリテーション事業所などの設置状況や業務内容等の調査を実施した上で、当センターとの連携強化を図り、在宅におけるリハ技術支援体制づくりに努めていきたいと考えています。



補装具の適合・供給人材スキルアップ育成研修　４年間の取り組み

各地域でリハ技術支援の展開を図るには、補装具等の適合・供給のための知識をもつ専門職の育成が急務と考え、平成25年～28年の４年間で下記に示す２種類の研修会を開催し、各々の修了者をセンターホームページに掲載しています。

◆自立支援型サービスの視点を重視した プランニング実践研修◆

障害のある人のサービス等利用計画を作成する相談支援専門員や高齢者のケアプランを作成する介護支援専門員等を対象に、福祉用具や環境調整により、その人らしい生活を実現するためのプランニング法を学ぶ研修会を開催しました。３回１コースの本研修を、県内各地域で開催し４年間で延べ324名の受講者と、88名の修了者が誕生しました。

当事者と就労事業所代表の立場から
４年間連続でご講義いただいた上村ご夫妻

◆補装具の適合・選定・改良・製作等の実践的技術研修◆

４年間をかけて「電動車椅子」、「車椅子」、「座位保持装置」、「コミュニケーション機器（重度障害者用意思伝達装置）」の各補装具をテーマとし、各々総論、評価、適合技術Ⅰ．Ⅱ、制度、事例演習と６回１コースの研修会を開催しました。各テーマ６回全てを受講いただいた方々にとっては、日々の忙しい業務のなか大変なご苦労だったと思います。

修了者と受講者数

研修テーマ	修了者	受講者延数
電動車椅子	26名	234名
車椅子	50名	420名
座位保持装置	40名	395名
コミュニケーション機器	23名	278名

実際の演習では初めて補装具申請の実践を行うリハ専門職も少なくなく、今後も身近な地域で障害のある人の自立支援を展開するためには、補装具や福祉用具の適合・供給に関する知識や経験を持つ人材の育成が重要であると感じています。今後も皆様のご協力および当センターが企画する研修会にご参加いただければと思います。

● 受講していただいた専門職の方からの感想（石川病院リハビリテーション科　柴田進吾さん）●

この研修では、コミュニケーション機器やスイッチ、制度の基本的な説明だけでなく、患者様やご家族様がコミュニケーション機器を用いて一体何をしたいのか、どのような姿勢・環境で使用するのか等、セラピストが無視してはいけない重要な考え方を学ぶ事ができました。今では当院の患者様やご家族様にコミュニケーション機器について自信をもって説明する事ができるようになりました。これから困ったことが出てきましても、リハビリテーションセンターに相談できると思うと安心感があります。

リハビリテーション専門職活用事業

◆理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会　結成◆

リハビリテーション専門職活用事業では、「地域包括ケアとリハビリテーション構築事業報告会」（138名参加）を開催するとともに、リハ専門職団体との共催で「シンポジウム：地域包括ケアにおけるリハビリテーション」（147名参加）を開催するなど、地域に貢献できる人材育成を行いました。

これまでの活動を通じて、今年度にリハ専門職団体が協力して地域包括ケアの推進を目的として活動するために「理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会」が結成されました。研修会の実施や連絡窓口、各職種の活動を明示するパンフレットの作成など、地域の方々が容易に相談・利用できる体制づくりが進んでいます。

今後も、県内全域でリハ専門職が活用され、皆さんが質の高い生活を送ることができる体制づくりに努めていきたいと思います。

介護負担の軽減を目的とした職場環境改善の取り組み

◆福祉用具を活用した職場環境改善のための研修会◆

平成27年から福祉用具の活用により利用者の生活の自立や質の向上を図り、介護・福祉職の負担軽減や腰痛予防等の職場環境改善に貢献できる人材を育成することを目的にこの研修を開催しています。

平成28年12月５日に開催した研修では、施設内で福祉用具の導入時に必要なことや実践報告、職場定着支援助成金をテーマに行いました。参加者からは「持ち上げない介護を実践したい」「他の職員にも福祉用具の活用方法を再度伝えたい」との声が聞かれました。

◆介護職場での介護負担軽減に向けての取り組み支援◆

以前に当センターの研修を受講し、職場定着支援助成金（介護福祉機器等助成）を申請して設置型リフトを導入した施設に対して職場での支援を行いました。職員を対象に２回研修を実施することになり、研修の内容として１回目は理学療法士による腰痛予防とボディメカニクスを活用した介護方法の実技、２回目は作業療法士が実技を取り入れながら対象者に合わせた移乗方法やリフト利用のポイントについて実施しました。今後も介護・福祉職の負担軽減や腰痛予防等による職場環境改善の取り組みを支援していきたいと思います。

●　職場環境改善に取り組んだ専門職の方からの感想（第二長寿園機能訓練部　寅口　隆さん）●

第二長寿園では職員の腰痛発生が慢性的に続き、対策を講じてきましたが定着は難しく、効果も見えない状態でした。今回、研修会に参加しセンター職員の方々の協力も得て実践を行ってきました。福祉用具を使ったことのない職員も多く当初は使用率も低かったのですが、職員と利用者共に利点があると実感出来てからは少しずつ定着が進んできたように思います。この研修会の特徴は対象者が管理者であり、結果を出す為には職員の意識改革も含めて管理者が方針を示し、施設全体で目指す事が重要だと感じる事が出来ました。

◆教職員リハビリテーション研修◆
『発達に障害がある子どもの不器用～自閉スペクトラム症を中心に～』

平成28年８月８日（月）に県内の特別支援学校・学級の教職員、保育士やリハ専門職、その他関係者を対象とした教職員リハビリテーション研修会を、県立七尾特別支援学校との共催でワークパル七尾にて開催しました。保護者の方々も含め、計118名の参加がありました。

発達障害に対する作業療法の臨床研究・教育を行っている加藤寿宏氏（京都大学大学院 准教授）による講演では、上記のテーマで不器用な児の様子を動画を混えてわかりやすくお話していただき、「不器用について理解できた」と多くの声が寄せられました。

バリアフリー推進工房事業

◆在宅で活用できる軽量コンパクトな姿勢変換機能付き電動車椅子の開発◆

バリアフリー推進工房では、電動車椅子の国内トップメーカーである今仙技術研究所と共同で、電動姿勢変換機能（電動ティルト・電動リクライニング）を持ちつつも軽量でコンパクトな電動車椅子の開発に取り組んでいます。在宅環境で活用できる小回り性、福祉車両への積載対応、多様なインタフェースの適応などの特徴があり、平成28年度厚生労働省障害者自立支援機器等開発促進事業として採択され、その試作機が「シーズ・ニーズマッチング交流会2016」で発表されました。今後、耐久性のテストやユーザーによるモニター評価を重ね、製品化を進めていきます。

高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターは県内の支援拠点として、高次脳機能障害に関する医療・福祉サービス、療養生活や就学、就労などの各種相談に対応しています。また当事者・家族向けの教室、研修会、講演会なども行っています。

◆生活支援教室◆

当事者同士の交流や活動を通じ、障害認識を深めたり代替手段等の情報を得たりして、地域での安定した生活への移行を図ることを目的に、毎週水曜日に開催しています。今年度は、わくわくコマツ館に出かけダンプトラック930Ｅに試乗してきました。65歳未満の高次脳機能障害者で集団活動に参加できる方が対象です。参加ご希望の方は当センターまでご相談ください。

◆就労者のつどい◆

働く高次脳機能障害者が仕事の悩みや生活の中で感じる様々な思いを話し、情報や意見を交換する場として年２回、土曜の午後に開催しています。「仕事は充実しているか、ストレスの発散方法はあるか、相談できる人はいるか」などをクイズ形式で質問し、参加者が○×方式で答えて交流を深めました。参加者からは「いろんな意見が聞けて良かった」「自分のことを整理できて良かった」などの感想が聞かれました。

◆家族教室◆

高次脳機能障害者のご家族向けの教室を年に２回開催しました。「障害の理解と対応」「社会資源」について講義の後、家族会の活動紹介や家族交流会を行いました。参加された方は発病されて間もない方のご家族が多く、「障害への理解が深まった」「同じ境遇の家族と悩みを共有することが出来た」との感想が聞かれました。

◆支援関係者連絡会◆

高次脳機能障害者の支援上の課題や関係機関との連携について検討し、支援ネットワークを強化するための連絡会を行っています。今年度は神奈川県総合リハビリテーションセンター高次脳機能障害相談支援コーディネーターの瀧澤 学氏をお招きし、高次脳機能障害者への支援についてご講演いただいた後に事例検討を行いました。参加者からは「アセスメントや具体的な支援について事例検討を通して学ぶことが出来て勉強になった」との感想が聞かれました。

◆専門職研修◆

なやクリニックの納谷敦夫先生を講師に迎え、社会的行動障害（怒り、睡眠障害、うつ、脱抑制等）の事例を通した地域での対応方法について研修会を開催しました。ご自身も息子さんが交通事故で高次脳機能障害になった経験を基に、家族会の大切さを強調され、参加者からは「家族へのサポート方法を学ぶ事ができた」などの感想が聞かれました。

◆普及啓発講演会◆

「もやもや病の患者と家族の会」とともに講演会を企画し、高次脳機能障害（生きづらさ）を抱えて生きる自身の体験談を全国各地で講演されている小林春彦氏をお招きしました。

また、「高次脳機能障害患者と家族の会つばさ」と共催で行っている講習会も４回目を迎え、今回は「就労」をテーマに障害者職業総合センターの田谷勝夫氏による講演会と、当事者を交えて「いきいきと働くために」と題したシンポジウムを行いました。当事者の生の声を聞くことが出来る貴重な機会となり、多くの方の参加がありました。

NPO法人 高次脳機能障害患者と家族の会つばさ より

毎月第３日曜日に「ほっとあんしんの家」で定例会を行い、当事者・家族が体験を語りながら交流しています。平成28年度は研修会の企画やキャンプ、クリスマス会、料理教室などのイベントを行いました。

同じ悩みを持つ仲間がいます！この障害で悩んでいる方は、ぜひ一度ご参加ください。

難病相談・支援センター事業

【難病相談・支援】

難病相談・支援センターは、平成18年５月に開設し、10年が経過しました。難病患者さんとそのご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、各種相談をはじめ、同病者との交流、研修会の開催、病気・就労に関する情報提供、福祉用具や住宅環境調整等に関する支援を行っています。

◆就労相談会◆

「就労したいがどこに相談したらよいか」「就労しても長続きしない」「職場にうまく適応できない」等の仕事に関する相談に対応するため、毎年就労相談会を開催しています。今回は石川障害者職業センターの方に講師をお願いし、難病患者さんが受けられる就労支援（利用できる制度等）について具体的に教えていただきました。

日頃、センターに寄せられる相談は、40代50代の働き盛りの方からの相談が多く、就労支援が課題となっています。センターでは引き続き就労相談会を開催し、利用できる制度等の支援について学ぶ機会を確保し、ハローワークの難病就労サポーター等との連携による個別支援を丁寧に行い、就労支援の充実強化を図っていきたいと思います。

◆難病交流会 ～リボンの会～◆

難病交流会に名前が付きました。参加者で意見を出し合い、難病を患っていても孤立せず、みんながつながれるようにとの願いを込め、「リボンの会」と名付けました。リボンの会では、テーブルを囲んで、作品作りを楽しむ方々、おしゃべりを楽しむ方々など、難病の方々が疾病を超えて交流しています。

今年度は、箏・大正琴の鑑賞会や、理学療法士・作業療法士による生活に役立つ勉強会、マカロニリース作り等、まだ参加したことがない方が興味を持ってご参加いただけるようプログラムを設定して活動を行いました。ただし、その日の体調や興味に合わせて、参加の仕方、時間内の出入りは自由です。また、プログラムがない日の内容は、参加される皆さんの提案によって決めることも多く、手芸やトランプ、カラオケなどご自身がやりたい物を持参して、教えたり、教わったりと興味のある方同士で楽しんでいます。その中で、お互いの近況を報告したり、思いを語りあったりするなどピア・サポートの場にもなっています。

～参加者疾患名～

パーキンソン病／強皮症／脊髄小脳変性症／全身性エリテマトーデス／サルコイドーシス／後縦靭帯骨化症／顕微鏡的多発血管炎／下垂体前葉機能低下症／線維筋痛症　など

◆難病医療講演会・相談会◆

難病のある方やそのご家族を対象に、専門医から最新の医療情報、疾患や療養生活に役立つ知識を提供していただき、理解を深めることを目的に実施しています。今年度は「腎臓系疾患」、「肝・胆道系疾患」、「慢性疼痛」について、県の拠点病院や地域の開業医の先生に講師をお願いし開催しました。普段なかなか解消することができない悩みや質問に対して、先生から助言をいただいたり、患者家族同士の交流・情報交換の場でもあったりと、好評を得ています。

◆セルフマネジメント研修◆

病気であるがゆえに感じる怒りや無力感・不安などと向き合い対処することをねらい、医王ケ丘病院の朴裕美先生を講師に「難病患者と家族のための感情マネジメント『自分の感情をよく知ろう』」と題して研修を行いました。

また、社会生活のマネジメントの一助となるよう、パソコン教室や音楽教室をボランティア講師の協力を得て継続して実施しています。

◆ピア・サポート研修◆

当事者同士が経験を分かち合い、同じ立場で共感し支えあう「ピア・サポーター」としての基本的な知識や技術を身につけることを目的に、難病患者会に所属されている方を対象に全２回コースで研修を行いました。基礎編では、「ピア・サポートの心構えと傾聴の基本」について、フォローアップ編では、ロールプレイングを中心により実践に近い形で学びを深め、参加者の方は、自分が相談をする際や相談を受ける際の対応の仕方を振り返りながら、研修を受けられる姿が見受けられました。

小児慢性特定疾病児童等自立支援事業～地域で暮らす慢性疾病の子どもたちへの自立支援～

難病相談・支援センターは、平成27年度から小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を開始し、子どもから大人までの難病の相談機関になりました。

小児慢性特定疾病とは、①慢性に経過する疾病であること、②生命を長期にわたって脅かす疾病であること、③症状や治療が長期にわたって生活の質を低下させること、④長期にわたって高額な医療費の負担が続く疾病であることの４つの要件を満たす疾病をいいます。このような慢性疾病の子どもたちが療養しながら成長し、自立していく過程では様々な支援が必要となります。難病相談・支援センターでは、次のような事業や相談を通じて子どもたちのニーズを把握し、より充実した支援体制となるよう関係機関と連携していきたいと思います。

◆専門医等相談会と交流会の開催◆

専門医等による療養に関する講演の後、療養生活の相談を通してご家族同士の情報交換や療養に関する情報提供の機会としました。今年度は、小児がん、心臓病、プラダ・ウィリー症候群、成長ホルモン分泌不全性低身長症のご家族を対象に実施しました。特に希少疾患ゆえに専門家の支援を求めていた方々は、ご家族そろって、また支援者も誘って参加されました。患者家族会の協力をいただき、県外からの参加もありました。

◆支援者研修会の開催◆

全ての専門医等相談会に併せて支援者が疾病の理解や支援の方法について学ぶ機会としました。特に希少な疾病の場合、当事者のみならず支援者も具体的かつ詳細な研修の機会を求めていたということで、子どもをとりまく各方面からの支援者に参加いただきました。

◆各種相談◆

保健師や自立支援相談員等が療養生活上の不安や日常生活を送る上での悩みなどの相談に応じています。キッズスペースやオムツ交換台を設けてありますので、お子様づれでのご相談が可能です。また、未成年者のみならず青年期に移行している方、ご家族、学校、職場などの支援関係者からの相談もお受けします。

◆医療福祉情報の提供◆

石川県の実情に対応した情報を発信します。小児慢性特定疾病に関する当センターの事業や患者会情報、相談窓口一覧等を作成し、ホームページに掲載していますのでご活用下さい。

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター
TEL（076）266－2860　FAX（076）266－2864
E-mail　iprc@pref.ishikawa.lg.jp
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri

高次脳機能障害相談・支援センター
TEL（076）266－2188　FAX（076）266－2864
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/

難病相談・支援センター
TEL（076）266－2738　FAX（076）266－2864
E-mail　nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/

「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353　金沢市赤土町ニ13－１